

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における
「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する調査研究（小・中学校）」
平成 25 年度委託事業完了報告書【総括】

都道府県名	徳島県	番号	9
-------	-----	----	---

推進地区名	推進校名	生徒数
板野町	板野中学校	357

○ 調査研究の内容

1. 推進地域における取組

平成 24 年度「全国学力・学習状況調査」結果からみる本県の全体的な現状として、主に次のような成果と課題がみられる。

○小学校

国語：「知識」に関する内容については全ての領域で正答率が全国平均を上回っており、基礎的・基本的な知識の定着がみられる。「書くこと」の領域においては表現の効果を確かめながら創作することに取組の成果がみられている。また、「活用」に関する内容については、目的や意図に応じて書く事柄を整理したり、内容の中心を明確にして書くことなど、「書くこと」に関して取組の成果がみられている。しかしながら、書き手の意図を捉えたり自分の考えをもち表現したりすることに依然として課題がある。

算数：「知識」における「図形」「数量関係」の領域においては取組の成果がみられるが、指導要領に新たに加わった内容の習得が十分でない状況がみられる。また、「活用」問題の解答時間に不足を感じている児童の割合が高い。

○中学校

国語：「知識」においては「読むこと」の領域で成果がみられるが、他の領域等では平均正答率が全国平均を下回り課題がみられる。また、「活用」においては全ての領域で全国平均を下回り、根拠を明らかにして自分の考えを説明することの無解答率が高く、依然として課題が残されている。

数学：「知識」における「数と式」「数量関係」の領域では正答率が全国平均を上回っているが、作図など作業を伴い問題を解決する内容に課題がみられる。また、無解答率が高く、記述・説明することに課題が残されている。

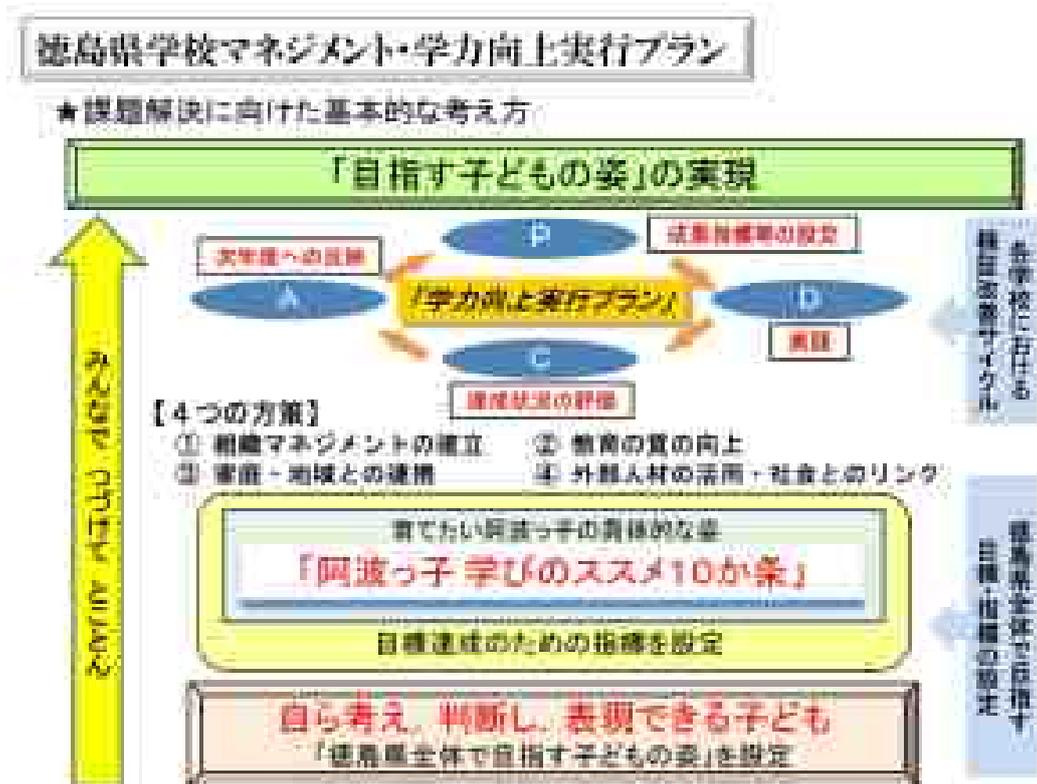
また、本県独自調査である「徳島県学カステップアップテスト」結果においても、国語、算数・数学では全国調査と同様の課題が明らかとなっており、課題解決に向け

たこれまでの取組により全県的には年々改善が進んでいる事柄もあるが、同等規模の学校間において、正答率に10ポイント以上の差がみられる状況もあるなど、学力の定着に課題がみられる地域や学校の状況に関する分析と効果的な取組を検証し推進することが必要となっている。

(1) 「徳島県学校マネジメント・学力向上実行プラン」に沿った取組の推進

平成24年8月に学校関係者、大学関係者、民間企業関係者、保護者等で構成する「徳島県学校マネジメント・学力向上戦略会議」を設置し、平成20年3月策定の「徳島県学校改善支援プラン」に沿ったこれまでの取組の成果と課題の検証を行った結果、学力向上に関する取組のPDCAサイクルの定着に一定の成果がみられる一方、各学校における組織的な取組が十分とは言えず、本県児童生徒の課題解決に向けては、なお一層、学校長のリーダーシップのもとにPDCAサイクルの充実を図ることが必要であるとの報告書がまとめられた。

この報告書を受け、平成25年2月に「徳島県学校マネジメント・学力向上実行プラン」を策定し、次のような課題解決に向けた基本的な考えに基づき学力向上に向けた取組を行っている。



本プランに基づき各校で作成する「学力向上実行プラン」とは、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成」、「主体的に学習に取り組む態度の育成」の3つの視点において、「児童生徒の状況（よさ・課題）」に

学力向上実行プラン	
学年	内容
1年	
2年	
3年	
4年	
5年	
6年	
作成者：〇〇〇〇〇〇	

に基づき、「具体的目標（目指す子どもの姿）」、「具体的方策（教員の取組）」、「取組指標」、「成果指標」を設定し、学校・地域の特色を生かし児童生徒の実態に即して焦点を当てた具体的実践を年間のP D C Aサイクルに位置付け、課題解決に向けた取組を推進するためのものである。

(2) 推進地区及び推進校に対する指導・助言の状況

○推進地区に対して

- ・学力・学習状況調査結果等のデータを基に資料を作成し、指導主事が教育委員会を訪問し、課題の明確化と課題解決に向けた方策についての協議を実施。
- ・「全国学力・学習状況調査」及び「徳島県学力ステップアップテスト」について、域内の学校の状況を分析した資料を提供。

○推進校に対して

- ・指導主事が推進校を訪問し、学力・学習状況調査結果等のデータを基に、課題の明確化と解決に向けた方策についての協議を実施。
- ・「全国学力・学習状況調査」及び「徳島県学力ステップアップテスト」について、設問ごとの正答率、無解答率、解答類型等を国・県の状況と比較検討できる資料を提供。
- ・学校訪問による教科指導等に関する指導・助言の実施。
- ・校内研修の機会を活用し、佐古秀一教授（鳴門教育大学）をアドバイザーに招聘した研究連絡協議会を開催。

2. 推進地区における取組

推進地区である板野町では、推進校における取組の支援として、主に次の内容に関する取組を行った。

- (1) 「全国学力・学習状況調査」、「徳島県学力ステップアップテスト」結果の活用
 - ・詳細な分析結果に基づく指導・助言
- (2) 教職員の指導力向上のための校内研修の推進
 - ・県教育委員会から指導主事を学校訪問に要請
- (3) 「家庭学習の手引」の活用推進及び家庭・地域との連携強化
 - ・地域全体への積極的な情報発信
- (4) 校内学力向上検討委員会の積極的な活動の支援
 - ・学力向上を9年間の一貫教育の中で捉えた小・中連携の推進

3. 推進校における取組

- (1) 「家庭学習の手引」の見直しと活用
 - ・生徒の自主的な学習を促す観点から「家庭学習の手引」の見直しと活用を推進
- (2) 高等学校との連携
 - ・県立板野高校が作成する自主教材「Smile」を活用
 - ・教材の活用による成果・課題等について校内及び板野高校と情報を交換
- (3) 習熟度別学習で学習意欲を高め基礎学力の定着を図る取組

- ・第2学年（4学級）、第3学年（4学級）において、習熟度別学習の時間「チャレンジ」を取り入れ、習熟度別にプリント教材を作成し、生徒の学習意欲を高め主体的な学習を促す取組

○調査研究の成果

1. 推進校における取組の成果

推進校においては、各学年団の教員全体によるきめ細かな指導の実践につなげることができた。また、県立板野高校の自主教材「Smile」に掲載の問題を推進校の生徒の実態に応じて活用し、基礎学力の定着を図ることができた。

その結果、生徒は、通常の授業とは別の、集中して学習に取り組む機会において、自らの習熟度に応じた教材の主体的選択、個々のペースに合わせた学習の進度、友達との学び合い、教師の個別指導等を得ることができ、学習に対する意欲の高まりが見られた。更に、検証として行った評価テストでは、得点の上昇が見られた。

また、中学校段階で習得させる学習内容はどれも大切なものであるが、県立板野高校との情報交換により、高校の学習において不可欠な基礎学力についての認識が推進校教員に深まった。更に、「Smile」には特に普通科高校に進学する生徒にとって確実に習得が望まれる内容が示されており、実践を進めるに連れ生徒は意欲的に学習に取り組む姿を見せるようになった。



2. 調査研究全体の成果

(1) 佐古秀一教授（鳴門教育大学）をアドバイザーに招聘した連絡協議会の開催（第1回）

- 推進校の現状分析による課題の整理

- 取組の方向性の確認

(第2回：推進校の校内研修を兼ねる)

- 現状を踏まえた取組の進捗状況と今後の取組について

- ・中学校での学習に必要な基礎学力、学習意欲が不十分な生徒への対応

- ・生徒指導面で課題の多い生徒への対応

- ・保護者の協力、家庭・地域との連携

連絡協議会において、推進地区・推進校における家庭環境等の様々な理由により

学習や活動が困難になっている生徒の実態及び課題解決に向けた取組の現状について協議を行った。その中で、佐古教授からは、授業改善はもちろん重要なことであるが、学力定着に課題がある現状を乗り越えるための柱として大きく次の3点が示された。



◇学校ぐるみの取組が不可欠

◇教職員の課題意識の共有

◇教職員と生徒の「信頼関係」をしっかりつくる

また、生徒が前向きに学習や活動に取り組むようになるために必要な取組として、

◇教育活動の土台づくりの重要性を全ての教職員が共有

◇実態に即した安心・安全づくりのための「絶対ルール」づくり

◇生徒を認め、励ます具体的な取組

が提示され、その後の質疑応答は予定時間を超過しても活発に行われた。

(2) 推進校における「学力向上実行プラン」に基づく取組

○基礎的・基本的な知識・技能の習得

(年度当初の状況) 漢字や計算など基本的な知識・技能の定着に自信を持つ生徒も多いが、二極化の傾向があり、一部の生徒には学習意欲の低下と低学力の悪循環が見られる。

(取組, その成果と課題) 授業中の小テストの継続的な実施, 家庭学習課題の充実を図ることに重点を置いた結果, 家庭学習の実施率や家庭学習課題の提出率に伸びが見られたが, 目標とした成果指標には届かなかった。

(今後の取組) 小テストの利用など, 基礎・基本の確実な定着を図る取組, 授業内容との関連づけを重視した家庭学習課題の作成・実施・評価の検討。

○知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

(年度当初の状況) 与えられたテーマや方法・手順が決まっている学習には真面目に取り組む生徒が多いが, 学習した内容を自分なりに考えてまとめたり発表することに苦手意識がある。

(取組, その成果と課題) 授業において生徒に自分なりの答えを見つけ出せるような課題を設定したり, 自分の考えや意見をレポートにまとめてから発表させたりする授業改善に取り組んだ結果, 半数以上の生徒が自己評価において考えをまとめたり発表したりすることに自信を持っている結果となった。しかし, 教師側の評価ではそれほど高くない結果となった。

(今後の取組) 生徒の意識と教師の意識の差異について原因を検討し, 引き続き, 考えたことや感じたことをまとめたり発表したりする場面を授業の中に設定するなどの授業改善に取り組む。

○主体的に学習に取り組む態度の育成

(年度当初の状況) 与えられた課題には真面目に取り組む生徒が多くなってきた

が、家庭学習を含め自主的に学習や課題に取り組める生徒の育成が十分でない。(取組, その成果と課題) 各教科における家庭学習課題の適切な設定と、「家庭学習の手引」を活用した保護者との連携を推進することにより、家庭での学習習慣の定着を図った結果、「将来の夢や目標を持ち、自主的に学習に取り組んでいる」と自己評価する生徒が約6割となり設定した成果指標を上回ったが、教師側の評価は約5割であり開きが見られる。

(今後の取組) 家庭学習については継続して自主的な学習を習慣づける取組を行うとともに、授業準備を整え授業に集中できる態度の育成を家庭と連携して進めるための方策を検討する。

(3) 「徳島県学力ステップアップテスト」結果を踏まえた取組

県教育委員会の推進地区、推進校に対する支援の1つとして、当該地区・校の調査結果の詳細な分析と、授業改善に向けた具体的取組例を提示し、日々の授業改善や「チャレンジ」の時間の充実を推進した。12月に実施した「徳島県学力ステップアップテスト」結果からは、推進校における焦点を当てた取組の成果として、経年変化を見るための設問において、正答率が県平均を上回ったり県平均に近づいたりした。なお、「全国学力・学習状況調査」については、平成26年度調査の結果により成果を把握することとしている。

3. 取組の成果の普及

(1) あわ(OUR)教育発表会における成果の普及

本県では平成23年度から、県内の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校において特色ある教育活動を実践する園・学校が、取組の成果をポスターセッションで普及する「あわ(OUR)教育発表会」を開催している。本発表会は、教職員、教育行政関係者、保護者、県民等の参加により、校種を越えて教職員が集い情報交換を行う場とするとともに、教育実践の成果を広く普及し県内における教育に関するネットワークを築き、各学校の教育活動について一層の改善・充実を図ることを目的としている。

推進校は、「基礎基本の習得と基礎学力の向上を目指して」というテーマで実践発表を行い、推進校の発表ブースには、他のブースと比較して多くの人が集まり、参加者の推進校の取組に対する関心の高さが示されていた。

推進校の発表に対し、参加者からは次のような感想、意見を得ることができた。

- ・学力定着についてはほぼ共通の悩みを持っている。習熟度別学習の推進の必要性を実感した。教育委員会等とタイアップを図っていく必要性も感じた。
- ・習熟度別の学習形態が効果的であるということが実証されたものと思う。クラス分けにおける難しさがあると思うが、学力の厳しい子供たちに意欲と希望を持たせることができているので素晴らしい。中・高の連携も密接に感じた。
- ・生徒が前向きになっている所が素晴らしいと思う。教師の努



力は必ず生徒に伝わると思う。教師の努力を惜しまないで実践していきたい。

- ・生徒の実態に合わせ、先生方が学力向上に向けて工夫し、努力していることがよく分かった。どの生徒も分りたいという気持ちを持っているのでそれを大切にすることが大事だと実感した。



- ・同じような学力向上の課題を持っている学校として大変興味深かった。教職員が生徒に積極的に発信している姿が大変素晴らしいと感じた。あきらめずに学力向上に取り組んでいきたい。
- ・自然な形で無理をし過ぎず地道に取り組める内容で参考になった。
- ・教職員が協力して学校としてまとまり取り組んでいることがよく分かる。

○ 今後の課題

本調査研究を通して改めて明らかになったことは、特に学力定着に課題を抱える学校においては、地域の特性、家庭環境等から及ぼされる児童生徒への影響が、学習意欲、学力定着に大きく関係していることであり、分かる授業、児童生徒が主体的に活動する授業を展開することはもちろんのこと、個々の児童生徒の生活状況、学習状況を担任や教科担任など子供と関わる者がしっかり見取り、その情報を全ての教職員で共有し、全ての児童生徒が学校での学習活動に期待を持って安心して登校できる学校づくりを行うことの大切さである。具体的には、学校全体あるいは学年、学級、教科等で児童生徒と目標を共有するとともに、学校教育のあらゆる場において児童生徒の意欲、前向きな姿勢、具体的な努力、つまずき等を教職員が見取り、見取った事柄を基に児童生徒を認め励ます取組を継続することである。推進校による習熟度別学習の取組においても、こうした土台づくりにつながる成果が得られた。

次年度においては、本年度の推進地区・推進校の成果の普及と併せ、平成25年度に各小学校・中学校が作成し実践を行った「学力向上実行プラン」において、土台づくりの視点による取組とその成果を見出し、研修会等を通じて各校に情報提供することとしている。

また、推進校において継続課題とした家庭との連携については、家族関係、経済的状況など各家庭には様々な実状があり学校だけの対応には限界があるため、市町村の関係機関、各種団体との連携により学校と家庭・地域との連携が図られている事例を収集し、課題解決につなげていきたいと考えている。

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における
「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する調査研究（小・中学校）」
平成25年度委託事業完了報告書
【推進地区】

都道府県名	徳島県	番号	9
-------	-----	----	---

推進地区名	板野町
-------	-----

○ 推進地区として実施した取組の内容

1. 重点課題

推進校における以下の取組に対し指導・助言を行い促進を図る。

- ・生徒の学習意欲をさらに喚起すること
- ・個に応じて基礎・基本の定着を一層図りつつ、習得した知識・技能を活用する力の育成を図る取組を推進すること
- ・授業改善や校内研修の充実を図ること
- ・保護者の意識を高めつつ家庭との連携・協力が図れるような取組を推進すること

2. 重点課題への取組状況

(1) 全国学力・学習状況調査，徳島県学力ステップアップテストの結果の活用

全国学力・学習状況調査や徳島県学力ステップアップテストの結果分析を活用し資料を推進校に提供するとともに，課題解決に向けた授業改善等の方策について，県教育委員会に指導主事等の派遣を要請し，推進校における研究授業及び授業研究会の充実を図った。

(2) 教職員の指導力向上のための校内研修の推進

学力向上のために授業力・指導力の向上を目的とした校内研修を積極的に実施できるように，県教育委員会担当指導主事に学校訪問を要請し，学校長，研修主任等を交えた連絡協議会を開催した。

(3) 「家庭学習の手引」の活用推進及び家庭・地域との連携強化

学校が作成している「家庭学習の手引」を積極的に活用し，小・中学校が連携して学習習慣の定着と学習意欲の向上が図られるよう，管内学校長との連絡会において働きかけた。

また，基本的な生活習慣の定着と学習習慣の定着に大きな関連があることを踏まえ地域の実情に応じて「町学人権」の会議において基本的な生活習慣と学習習慣を共に定着させていく取組の強化を働きかけた。

(4) 校内学力向上検討委員会の積極的な活動の支援

学力向上を9年間の一貫教育の中で捉え，小・中学校が連携して取り組むことが

できるよう、全国学力・学習状況調査の結果公表後に、当該校の状況及び全国・県・町全体の状況を踏まえた改善策等について、町内小中学校長に資料を提供し、課題解決に向けた取組の推進を図った。

3. 調査研究の成果の把握・検証

(1) 推進校の報告書の検証

推進校においては、第2・3学年で習熟度別学習時間を設定し、各コースごとにプリント教材を作成し、学年団の教員全体がきめ細かな指導を実践した。また、県立板野高校の自主教材「Smile」の問題を活用し、基礎学力の定着を図った。

その結果、生徒は、授業とは別に集中して学習に取り組む機会を得ることで、学習に対する意欲の高まりが見られた。更に、検証として行った小テストでは、特に英語、数学において点数の上昇が見られた。

(2) 学校長からの聞き取り

年度途中からの計画、実践であったこともあり、研究体制の確立及び計画的な実践・検証が十分に行えなかったことは否めないが、特に学年団の教員が組織的に協働して生徒の学力向上に取り組むことができたことについては、成果であると捉えている。まずは生徒一人一人の状況を教員が見取り、その情報を共有しつつ常に情報交換を行っていくことが、一人一人を大切にしたいきめ細かな指導につながることを教員は実感できたと感じる。

4. 今後の課題

本研究に取り組むことにより、推進校においては生徒の学習意欲の向上につながり、基礎・基本の習得及び学習内容の定着が図られるなど一定の成果がみられた。しかしながら、学力定着に必要な生活習慣の確立に向けた保護者等との連携については、特に効果的といえる実践例を得ることが難しかった。また、推進校と県立板野高校との連携については、管理職員、教科担当教員それぞれに交流を行い情報交換し、互いに成果を得ることができたが、域内小学校との連携・協力については、推進校からの情報提供に留まった。

本研究は単年度の事業であり、また年度途中からの取組となったことから、計画的・継続的な取組及び十分な検証を得ることが難しい状況であったが、本事業終了後も推進校における継続的な取組を支援し、取組の成果及び課題を域内において有効活用していきたい。

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における
「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する調査研究（小・中学校）」
平成25年度委託事業完了報告書
【推進校】

都道府県名	徳島県	番号	9
-------	-----	----	---

推進校名	徳島県板野郡板野町立板野中学校
------	-----------------

○ 推進校として実施した研究内容

1. 重点課題

学力定着に必要な生活習慣の確立と、学習内容の基礎・基本の習得を図る。

2. 重点課題への取組状況

本校の学力における現状は、全体的に見て学力が高いとはいえ基礎学力の定着も十分とはいえない。昨年度の学校評価の結果からは、「基礎学力の定着が不十分」と感じている教員は60%を超えている。また、家庭環境に課題の見られる生徒も多く在籍している実態がある。そこで基礎学力の定着・向上を目指し、次のような取組を行った。

(1) 「家庭学習の手引」の見直しと活用

生徒の自主的な学習を促す観点から「家庭学習の手引」の見直しを行い、全校生徒に配布した。配布に際しては夏休み前の三者面談を利用し学級担任が保護者と生徒に直接説明しながら手渡しをした。また、「家庭学習の手引」を大きく拡大印刷し、生徒や来校した保護者等の目に付くよう掲示し意識付けを図った。

(2) 県立高校との連携

県立高校(板野高校)が作成している自主教材を本校生徒の実態に応じて加工するなど利用し、その成果等に関して教科担当同士が情報交換を行うなど連携を進めた。

(3) 習熟度別学習で学習意欲を高め基礎学力の定着を図る取組

「木曜日6校時の学年裁量の時間(通称チャレンジ)を活用した習熟度別学習」

①第2学年の取組

○学力差の大きい数学を中心とした学習

- ・アンケート調査により、生徒自らが初級・中級
- ・上級の3つのコースから希望するコースを選択。
- ・通常の4学級を初級コース1クラス、中級コース2クラス、上級コース1クラスに再編成して、習熟度別に作成した教材プリントを利用し指導。
- ・人数にばらつきは出るが、生徒の主体的な学習への取組を促すために希望を優先



したコース決定。

- ・教材プリントの内容は、各コースに応じた難易度・問題数となるよう作成。また、これまでの全国学力・学習状況調査結果において、本校が全国平均を下回る設問や正答率が7割を切る設問を参考に、各コースごとに問題を作成。
- ・指導体制は学年団の教員全体で取り組むことを基本とし、各クラスに2学年所属の教員を配置。教科に関する専門的な指導は数学担当の教師が各クラスを巡回して指導。
- ・毎月2回を目途にチャレンジを実施。通常はプリントを利用した学習を行っているが、11月のチャレンジではテスト形式で実施し、生徒個々の苦手分野の分析を実施。この分析をもとに問題の解説や繰り返しの演習(小テスト)を普段の授業(数学)の中に適宜取り入れた。そして12月のチャレンジで前回と同じ内容の問題を行い学習効果を確認し次回の課題設定につなげていった。



②第3学年の取組

○英語を中心とした主体的な学習

- ・通常の学級で実施するが、基礎・普通・応用の習熟度別のプリントを作成。
- ・生徒は自分の力に応じたプリントを選び、自主的に取り組むように指導。
- ・第3学年所属の教員が各教室で指導にあたり、教科の専門的な質問には英語担当の教員が巡回し指導。



③ Smile(スマイル)の活用

- ・板野高校の新生用の自作教材 Smile(スマイル)を中学生にも活用する。
- ・Smile(スマイル)という教材は板野高校が新生生に対し、中学校の学習内容の整理と高校での学習への導入を目的に作成している自作教材であり、高校入学段階までに定着させたい基礎学力を補うために、英・数・国について「学び直し」することを目的に作成されたものである。
- ・この Smile(スマイル)を「高校側から見た、最低限中学校で身につけるべき基礎



学力」と捉え、中学校卒業までに Smile(スマイル)をクリアできることを目指して取り組むこととした。

- ・ Smile(スマイル)の活用としては、チャレンジの時間に基礎コースのプリントに Smile(スマイル)の問題を活用し基礎学力の定着を図ることとした。また、第3学年の英語の授業において、小テストとして取り入れ基礎学力の定着を目指した。

3. 調査研究の成果の把握・検証

本年度の取組の(1)にあげた「家庭学習の手引」の見直しと活用については、家庭学習の定着・習慣化を目指した取組の一つである。三者面談で直接保護者に説明をした上で手渡しをすることで配布率はほぼ 100%となった。家庭における手引の活用状況について生徒への聞き取りを行ったが、保護者の積極的な関わりについては家庭により差が大きい状況がみられ、今後の工夫・改善が課題である。

(2)の県立高校との連携については、自作教材の活用を通して(3)の習熟度別学習の中で取り組んだ。(3)の第2学年、第3学年で実践した習熟度別学習は、学年の実態に応じて方法は異なるが、目的は生徒個々が自らの学力に応じ課題に主体的に取り組むことで学習意欲を高め自主的に学習に取り組む姿勢を身につけさせることである。普段は学習内容が分からないと言って投げやりな態度を見せる生徒であっても、取り組める内容であれば個別に支援を受けながら最後まで続けることができたり、中級・上級コースの生徒も仲間と相談し合ったり積極的に教員に質問したりするなど全体的に前向きな雰囲気を進めることができた。

生徒に行ったアンケート調査を見ると習熟度別学習(チャレンジ)に対する評価は2年生 70%、3年生 90%の生徒が肯定的に捉えている。個人の感想の中には、「自分のレベルにあった勉強ができるのが良かった。」「同じレベルの中でやっているので競争心が生まれた。」「友達に教えてもらえる時間は聞きやすくて良かった。」というような意欲的な感想も多く見られた。

4. 今後の課題

学力定着に課題を抱える本校の実態を踏まえ、基礎・基本の習得と基礎学力の向上をテーマに、チャレンジの時間を中心とした取組を行った。研究指定は短い期間であったが、チャレンジの時間においては、ほとんどの生徒が集中して学習に取り組み意欲的な姿を見せるなど成果を得られた。また、英語や数学においては評価問題において点数的にもアップしており、学習効果も見られる。

しかし、これらに見られる成果を一時的なものとしなないことが大切であり、学力や学習習慣として定着させることが必要である。今後の課題としては、この取組による教職員の意識の高まりを継続させるとともに、チャレンジの時間と通常の授業とを関連付けた取組の継続、そして、生徒の実態に即した課題設定を充実させることが重要だと考える。また、学校だけでなく家庭とも連携を図りながら家庭学習の定着と習慣化を進めていくための実践も、本校においては重要な課題だと考える。

3年生 学力向上に関するアンケート

(1) 1学期と比べて、得意な科目に変わりがある。

	よくなりました	少しよくなりました	変わりありません	よくなりましたが、 理由がない	合計
人数	39	30	22	3	118
%	33%	25%	18%	3%	



(2) 1学期と比べて、勉強がわかるようになった。

	よくなりました	少しよくなりました	変わりありません	よくなりましたが理由がない	合計
人数	10	42	43	14	118
%	8%	36%	36%	12%	



(3) 1学期より、勉強学習をきちんとするようになった。

	よくなりました	少しよくなりました	変わりありません	よくなりましたが理由がない	合計
人数	38	22	38	21	118
%	32%	19%	32%	17%	



(4) サマリンジで行った二重課題(3つのレベルに分けて行う学習方法)でこれからは勉強したいと思いますか。

	よくなりました	少しよくなりました	変わりありません	よくなりましたが理由がない	合計
人数	40	40	23	15	118
%	34%	34%	19%	13%	



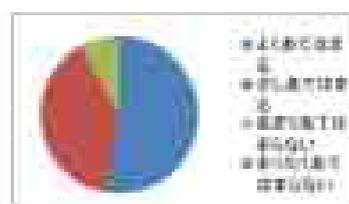
(5) サマリンジの感想

- ・自分に合ったレベルで勉強できるのが良かった。
- ・同じレベルの中でやっているのが競争心が生まれた。
- ・忘れかけている問題ができるからうれしい。
- ・友達に教えてもらえる時間は聞きやすくて良かった。
- ・自分の苦手なところが分かって良かった。
- ・今まで分からなかった問題が解けるようになってうれしい。

5年生 学力向上に関するアンケートNo. 2

(1) 1学期と比べて、授業さまじめに知りこんでいる。

	よくなってはいる	少しよってはいる	あまりよくなってはいる としない	まったくよくなって はいない	合計
人数	59	44	8	0	112
%	52%	39%	7%	0%	



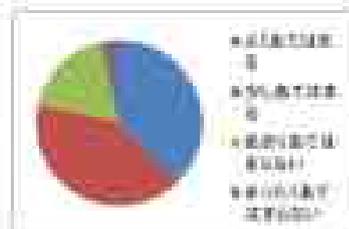
(2) 1学期と比べて、理解がわかるようになった。

	よくなってはいる	少しよってはいる	あまりよくなってはいる としない	まったくよくなっては まらない	合計
人数	22	62	22	4	110
%	20%	56%	20%	4%	



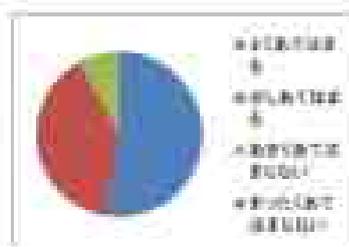
(3) 1学期よりも、家庭学習をきちんとするようになった。

	よくなってはいる	少しよってはいる	あまりよくなってはいる としない	まったくよくなって はいない	合計
人数	42	48	20	4	112
%	37%	43%	18%	4%	



(4) 独自のチャレンジを行った。英語の4種類のプリントは、次のレベルに付かれていました。このような学習方法でこれからも頑張りたいと思いませんか。

	よくなってはいる	少しよってはいる	あまりよくなってはいる としない	まったくよくなって はいない	合計
人数	59	44	8	0	112
%	52%	39%	7%	0%	



(5) あなたの学力が向上してきた理由として挙げられるものを次の中から選んでください。(1)つ選んでも構いません。

	読書	学校の授業	親のサポート	家庭学習	習字の学習	習字教師	その他	
人数	55	44	13	60	44	18	6	1学期と 比べ
%	50	40	12	55	40	16	5	

